

## 大いなる拒否

失意のうちに波は泡立ち  
ふと音が止む

こんなにも風は強いのに  
カモメはやはり哀しみを捜す

静寂は俺を離れず  
漂うごとに水へと沈む

雨上がりの砂浜は陽射しを受け  
優しささえもが遠くに霞む

何を生きろと言うのか  
今の俺に

無機質な虚栄に閉じ込められ  
触れることを忘れたこの俺に

次第に迫る波はただ叫ぶ  
帰れ、帰れ、帰れ、と

思い出は失い、そして  
未来は平坦だ

けれども帰らねばならない  
転調はないのだ

湿地のような芝の原を突っ切り  
失った者たちの叫びを背にし

俺は敗れなければならなかった  
大いなる拒否の渦の中に

(1987. 3.31)